

第 12 回教育課程編成委員会 議事録

日時 2019年3月20日 14:00～15:50

場所 下関福祉専門学校 図書室

出席者

河田 洋治 (社会福祉法人 菊水会 次長)
関谷 豊 (下関福祉専門学校 校長)
山本 美佐枝 (社会福祉法人 下関社会福祉協議会在宅福祉課長)
藤岡 恵子 (下関福祉専門学校 専任教員)
盛重 美恵子 (下関福祉専門学校 専任教員)
長本 幸子 (下関福祉専門学校 専任教員)

欠席者

鳥居 紀子 (公益社団法人 日本介護福祉士会元副会長)

課題

- ・今年度の教育目標評価及び課題
 - ・今年度の「福祉と文化」
 - ・各委員会からの意見要望
 - ・その他
-
- ・今年度の教育目標評価及び課題
各学年担任より評価及び課題を発表する。
 1. 自立支援、利用者本位の視点から尊厳を支えるケアの実践ができる
〈1 学年〉

実習Ⅱ（施設実習）の第1段階実習を体験することで、尊厳や自立支援ということをおおまかながら理解したと思われる。利用者本位の視点の重要性は座学で学び理解するが、視点が養われたかどうかは、今後の実習での評価による。

〈2 学年〉

実習を経験することで、利用者本位の視点を持つことができ、自立支援を考えながら介護過程の展開に取り込むことができた。
 2. 客観的な記録・記述力の方法を身に付ける。
〈1 学年〉

1年次の実習は情報収集のみであるため、介護過程での必要な情報を収集する

という意識がなかったため、収集した情報が希薄になっている。誤字、脱字においてはかなりの個人差がみられ、1～3月の総合演習の授業で記録の振返りを行った。

〈2学年〉

記録に対して個人差が多く、収集した情報を記録として残すことが困難な学生もいた。論文については、全体的に着眼点の掘り下げが甘く、曖昧な意見が多くなっている。

3. 介護領域の基本的な理解のもと他職種協働によるチームケアができる

〈1学年〉

施設実習で体験したことで、座学での理解不足を補うことができ、利用者の生活を実際に見ることでその意義も理解できた。

〈2学年〉

情報収集や疑問点を解決するためには、多職種の専門性が必要であることは理解できた。

委員からの評価、課題

- ・多職種協働について、偏った視点や主観的な視点が多く見られる。また個人差も大きい。
 - ・専門用語や略語について、せめて医療の言葉は事前に学んでおいて欲しい。
 - ・他職種協働においてコミュニケーションが重要である。まずは学校でしっかりコミュニケーションをとる練習をして欲しい。コミュニケーションはすべての基本である。
- ・今年度の「福祉と文化」
- ・「昭和史」を「昭和の唄」に替え、講義をしていただいた。内容としては当時の唄を蓄音機で流し戦前から戦後の昭和史の講義であった。次年度は、昭和の唄の歌唱指導を取り入れる予定である。
 - ・口腔ケアを例年1コマであったが2コマに増やした結果、充実した内容となった。
- ・各委員からの意見要望
- ・学校が、地域の方に愛され、応援していただけるような体制が必要である。
 - ・おれんじカフェなど地域活動があるので、実習以外にも参加を学生に呼びかけをしてはどうか。コミュニケーションの勉強にもなると思われる。

次回開催の日時 2019年8月開催予定